

青少年通信

第11号

発行：横浜市青少年育成センター
 横浜市中区住吉町4-42-1 関内ホール地下1階
 TEL：045-664-6251 FAX：045-664-6254
 Mail：ikusei@yokohama-youth.jp
<https://yokohama-youth.jp/ikusei/>

青少年育成と 2021年度

データでみる青少年



休校期間における教育格差

地域差や階層差に関係あり！

コロナ禍における休校時の教育委員会の対応には、地域によって内容の強弱があるとの調査結果がある。例えば短大・大学卒業者の割合が「35%以上の都県が多い関東圏」と「福岡を除く県が20～25%の九州」と比べると、『同時双方向型オンライン指導を通じた家庭学習』は関東12.0%、九州は5.0%と地域によって差がある。(※1)

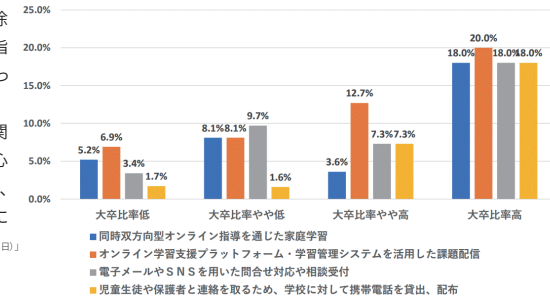
この格差の背景には地域の大学割合、つまり保護者の教育関心の階層差が影響している可能性があるという。保護者の関心・関与(ニーズ)に合わせて教育委員会の対応が採られた結果、内容に強弱が出たのである。ここで注目したいのが「社会的に

※1 浜銀総合研究所「コロナ休校時における教育委員会の対応—地域差と階層差に注目して(2021年7月8日)」
https://www.mext.go.jp/content/20210713_mxt_syoto02-000016589_16.pdf

※2 OECD報告書「図表で見る教育2021年版(Education at a Glance 2021)」(2021年9月16日)
https://www.oecd.emb.japan.go.jp/itpr_ja/1_1_000001_00082.html

恵まれている地位を結果的に優先することになる可能性がある(中村高康教授)」という点である。

2020年1月～21年5月20日の平均休校日数は、小学校は78日、中学校は92日、高校は101日との報告がある。(※2)子どもたちは3か月近く教育にバラつき(格差)が生まれた。地域で青少年育成に従事する者として、格差を認識し、抗い、支援しなければならぬのかもしれない。



スタッフ★ブログ

無意識のジェンダーバイアス

- A. 最近モンベルの日傘買おうか悩んでいるんですよ。
 B. 私、この前のアマゾンセールで日傘買いましたよ。安いやつですけど。
 A. ほんとですか! ? 使い勝手どう?
 B. 日陰が常についてきて、髪の毛が熱くならないですね。ない時より快適です。けど、男性が日傘を差すことって、周りから見たら違和感あるかなって気になります。日傘を買うときも、レディースのきれいかわいいが多いので、デザインは困りましたね。
 A. それわかります。だからモンベル。メンズも使うアウトドアブランドの日傘って口実がないと使いにくい。けど、今全国的に品切れ

みたいです。

- B. 同じ考えの人がいるんですね。
 A. そうかも。けど、昨日ヨドバシでハンドルの扇風機買って、これも中央に「yodobashi」って書いていて、これなら使えるなど。
 B. それはちょっと違う気も・・・(笑)
 A. (笑) けど、いざ使ってみると、ハンドレ扇風機も意外と使ってる人少ないんですね。だから、使いづらい。日傘も同じ感じなんだと思います。
 B. Cさんは日傘使うって抵抗ありますか?
 C. メンズ日傘って最近聞きはしますけど、男性で使っている人見かけないので、やっぱり使うのに抵抗ありますね。
 B. なんなんでしょうね。無意識に日傘は女性のものって決めつけちゃっているんでしょうね。

団体や人材の交流促進



青少年に関わる人の人材育成研修



次世代人材の育成



青少年活動や団体運営に役立つ講座



横浜市青少年育成センターでは、コロナ禍にあっても、コロナ禍だからこそ、青少年活動を継続しようとするひとや団体、そして青少年を支援するために、社会環境の変化に対応しながら事業を進めてきました。青少年に関わる人材育成のため研修・講座、活動支援、相談支援、情報の収集・蓄積・発信、次世代人材の育成など2021年度の取組をまとめてご紹介いたします。

横浜市青少年育成センター



横浜市中区住吉町4-42-1 関内ホール地下1階

2021年度は新型コロナウイルスの影響が続き、青少年の活動や青少年育成・支援の取組においても、さまざまな工夫と変化への対応が求められた一年でした。



2022年度 青少年理解の基礎研修

青少年についての新たな知識やノウハウを学ぶ基礎研修

オンラインでも受講OK!

前期	後期
①9/20(火) 「セクシャルマイノリティ」	①10/28(月) 「虐待①」
②9/28(水) 「発達障がい」	②11/8(火) 「ひとり親」
③10/5(水) 「ヤングケアラー」	③11/15(火) 「デートDV」
④10/13(木) 「オーバードーズ」	④11/22(火) 「ユースワーク」
⑤10/24(月) 「不登校」	⑤11/30(水) 「虐待②」

対象 日常的に子ども・青少年にかかわる方
 定員 各回対面30人、オンライン20人(受付先着順)
 会場 【対面】横浜市青少年育成センター 第1研修室
 【オンライン】ZOOMによるビデオ通話
 参加費 各回600円

青少年理解の基礎研修の詳細・お申込みはHPで、
<https://yokohama-youth.jp/ikusei/youth-hiki-kiso2022/>

「青少年」のことなら、育成センターに

施設の貸出
 【開館時間】月～土曜日 9:00～22:00
 日曜・祝日 9:00～17:00

【休館日】施設点検日・年末年始(12月29日～1月3日)
 活動内容に応じて、会議室の貸出をしています。その他、和室、音楽スタジオなど多目的な活動を支援します。プロジェクターやwi-fiなど設備も充実しています。

活動相談・情報提供

青少年に関する研修・講座の組み立て方や講師の紹介、地域の青少年活動の事例紹介や青少年関係の統計など活動相談や情報提供を行っています。



お問い合わせ
 TEL: 045-664-6251 Mail: ikusei@yokohama-youth.jp

発信力UP講座 6月



ZOOM と対面でのハイブリッド形式による講座の開催でした。講師は、様々な形で参加者一人一人に丁寧に向き合っており、ワークも参加者の活動に寄り添って、何が大切かを伝えてくださいました。

9月 応急手当講習会

横浜市防火防災協会から講師を招き、上級救命講習を行いました。救命救急の現場で長年実践を積まれた経験豊かなお話と、分かりやすい実演で、とても理解しやすかったと受講者からも好評でした。



コロナ禍によって子どもたちの体験活動の機会が減少する状況で、身近な自然でも十分に豊かな「自然体験」、「自然学習」が行えることを実践から学びました。横浜市緑区にある新治里山公園で実施しました。



自然遊び講座

11月

初心者から分かる写真講座



基本的な写真の撮り方、撮る前の準備や環境を整えること、撮ることに集中してしまうと見逃してしまうこと、カメラの調整の方法、編集についてなど盛りだくさんの内容でした。

1月



スマホで作る動画作成講座

3月

子どもたちが撮影した動画や、映画の名作を題材に、基礎的な知識を教えていただきながら、スマホを使った1分間の動画作りに取り組みました。皆さん生き生きと取り組んでおられて、楽しい動画作品ができました。



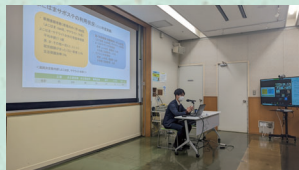
育成センターでのウォールアート制作 5月

次世代人材の育成

地下1階交流スペースを居心地の良い空間にするため、桜美林大学の「オーラウンドアートサークルはやお」にウォールアートの制作を依頼しました。5月初めから制作を開始し、8月末に完成。サークルにとってもアートを通して地域につながる経験となりました。

2月 青少年課題の相談先・連携方法を学ぶ・知る

青少年に関わるための専門研修として「虐待」「就労」「外国ルーツ」「セクシュアリティ」に関する横浜市の相談機関の方を招きました。専門的な知識を身につけることは大変ですが、専門的な機関を知っておくことはできます。参加者からは「子どもたちへの相談援助に役立つ内容でした」という声をいただきました。



横浜ヤングケアラーヘルプネット

～後の立ち上げから現在までの活動について～

10月 子ども・青少年理解の基礎研修 後期

後期では「ヤングケアラー」「子どもの虐待被害」「SSW（スクールソーシャルワーカー）の役割」を学びました。また、2021年度の特徴的な取り組みとして、WEB会議ツールを利用した、会場とオンラインでのハイブリッド開催にも挑戦しました。これにより遠方の講師の登壇や、市内のどこからでも手軽に参加できるなど、可能性が広がりました。



「ウイズコロナ」時代の青少年課題に向き合うために、7つの分野の専門家から青少年理解のための基礎知識を学びました。前期では「依存症」「ひとり親家庭の支援」「多文化共生」「障害児支援」について、課題の歴史的背景から支援の現状、取り組みの中で直面した事例や対応の顛末などから、多くを学ぶ貴重な機会となりました。



子ども・青少年理解の基礎研修 前期 6月

青少年に関わる人の人材育成研修

対話を通して自身の成長と他者との関係性を築く場としてユースゼミを行っています。2021年度のユースゼミは「20代若手スタッフが現場をふりかえられる場」として開催しました。青少年育成に携わる20代のスタッフが集い、ファシリテーターと共に自身の「大事」や「転機」についてふりかえる機会となり、同世代だからこそ話せること、深まることができました。



よこはまユースゼミ 9月

団体や人材の交流促進



横浜・子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会

大交流会

7月

例年開催していた青少年支援関係者の交流会も、コロナ禍の中止や完全オンライン開催を乗り越え、会場とオンラインでのハイブリッド開催を実現することができました。会場に集まることのできた参加者はもちろん、オンライン参加の方も含めて、人と人のつながりが社会の仕組みを支えていることを改めて実感する会となりました。



コロナ禍の2年間で残ること 変わること 始まること

コロナ禍は私たちの生活に大きな変化をもたらしました。オンラインでの会議が当たり前になり、これまでは会場まで足を運び、講師や他の参加者と対面で行われることが多かった研修・講座も、オンラインやオンライン・対面併用のハイブリッド形式で開催されるようになりました。青少年活動においても、活動自体を継続するために、可能なことはオンラインへの切り替えが進んだ一方で、中止となってしまった活動も少なからず存在します。

この2年間の社会環境の変化は、これまでの青少年育成にとって「引き返し不能点」となるのかもしれませんが。育成センターでは、2021年度の取組を通して、これからの青少年活動のあり方、そして青少年や青少年に関わるひと・団体の支援について考え、取り組んできました。

子ども・若者の居場所の発見・発信ボランティア 4月

2020年度から始めた「子ども・若者の居場所」や「横浜市で活動する地域団体」を取材しソーシャルメディアの“note”に投稿する若者ボランティア活動です。取材内容をアーカイブ化して発信することに加え、地域とのかかわりが希薄になりつつある大学生年齢の若者が、「知ることから地域につながる」ことにより、これからの生活や職業選択で地域活動に携わる考えを深める機会になりました。取材記事はこちらのQRから→

